

2022年度 書朋毛筆部 昇段試験を終えて

公益社団法人滋賀県書道協会 理事長 神田 浩

今年も多くの方に挑戦頂きありがとうございます。とりわけ初段を初めて受験された方が昨年より大幅に増えたことを喜んでいきます。今後も学書を継続して下さい。結果は別表の通りです。以下、各段審査担当の審査評を掲載します。今後の学書の参考にして下さい。

初段(古迫・前田)

126名という多くの方が挑戦されました。初めての昇段試験という方も多かったですと思います。初々しい新鮮な作品が多く見られましたが、ただ「字」を書くのではなく、筆先に思いを乗せて気持ちを入れて書く大切さを審査して感じてきました。体全体を使い、集中して書く筆勢のある生き生きとした線が生まれます。どんな書体においても常に筆先に気持ちを集中させることにこれからもご留意下さい。

2段(生田)

漢字については、楷書作品は特徴を捉え力強く表現された作品が多かったのですが、隷書行書作品については線質が固くそれぞれの書体の特徴を出せていない作品が目立ちました。毎月の課題を書かれる時に、テキストをじっくり見て、その書体の特徴を思い切って表現されてみてはいかがでしょう。仮名・実用書については、筆先を意識して線の太い細いを出すようにしてみてください。創作については、まだまだ書き慣れておられないと思える作品が多かったです。月例作品には、半切の作品からでも出せますので、毎月ノルマにして挑戦してみてもいかがでしょうか。

3段(藤居)

漢字作品は特に隷書を選ばれた中に何となく形をまねるだけで隷書の基本的な用筆や点画の構成についての理解が不十分なものが見られました。この段から必須となる仮名については、ふだんから学習している方とこの試験のために慌てて準備したという方の差がはっきりと出ているように思います。同じく必須課題である実用書は、自分がそれをもたらした時に誇らしく感じるような「立派さ」が求められます。まず、レイアウトをしつかり計画した

上で、太め、大きめで堂々と書かれると良いでしょう。創作は総じて体を大きく動かし、気持ちの乗った作品が多く、なかにはこのまま展覧会に出して他の方々にもお目にかけたいと思う素晴らしい作品がありました。

4段(押谷)

漢字臨書課題では行草書に躍動した良作が見られましたが、造像記の転折や運筆には甘さが見られました。隷書にも通じることですが、多字数を一行に詰め込みすぎなものも散見されました。仮名は日頃取り組んでおられる方とそうでない方の差が大きく感じられました。また、墨が濃すぎたり、ぼつたりとしたものは評価を下げました。賞状は丁寧な書きぶり为好感のもてるものが多かったですが、周囲の余白を美しくとったものを評価しました。書朋巻末の見本をよく見ていただきたかったところです。創作は、ただ一文字を大筆で紙面を埋めただけという観のものが多かったです。余白や潤濁に気を配ってほしいと感じました。

5段(神戸)

合格された方は全部門が平均的によく書けていました。日頃の練習の賜物でしょう。用具用材について、楷書、行草書、隷書の各書体によって用紙や筆をそれぞれに合ったものを使用されることをお勧めします。漢字臨書は、楷書は造像記の、隷書は曹全碑の筆遣いのできていないのが気になりました。仮名臨書は、日頃から半切に書く練習をすることが大切です。1、2ヶ月では無理があるかと思えます。実用書は、文字の大きさが不揃いなものや線の太細の変化がないのが目立ちました。創作は、工夫された作品がある一方、書けばいいというようなものもあり、5段受験者として物足りなさを覚えました。

6段(金澤)

全体的にはこれまで研鑽を積み重ね、総ての課題に取り組んでおられる方が多くおられることを頼もしく思いました。ただ、その中でも苦手な課題があ

令和4年度毛筆昇段試験結果

段位	受験者数	合格者数
師範	68	11
準師範		45
6段	58	23
5段	68	34
4段	72	39
3段	66	45
2段	74	56
初段	126	113
計	532	366

り足を引っぱったと感じる方も散見いたしました。6段を合格するにはどの課題も書けるよう、平均的な学習が必要になってきます。特に漢字の課題は特徴をしっかりと学習すること。仮名は半切で出品ですが、半紙で文字の呼吸など十分に覚え込んでから半切で書き込むことが大切です。実用書は文字の配置、漢字と平仮名のバランスなど紙面全体を見渡してかき上げることが重要になります。また、自分の名前は日頃からしっかりと書けるように努めて下さい。創作は、多様な線で白を意識し、日頃の月例出品に果敢にトライし、創作の感覚を磨いて下さい。

師範(神田・三原)

難関の実技試験に挑戦された皆様、お疲れ様でした。審査をさせていただき、改めて「その場で書く」という師範試験に臨むためには、やはり日頃から主体的に取り組む姿勢が必要だと実感いたしました。新しいテキストが届いた時に、次は「どう書こう」と思っ取り組んで来られた方の作品と、先生のお手本をまねるだけの取り組み方をされた方の作品では、かなり差が出てきます。毎月の課題が師範試験の「模擬試験」だと思っ取り組んで下さい。

毎月全ての課題に取り組むこと、苦手な分野を克服することも大切です。苦手だからといって月例で取り組まなければ苦手のままです。秋にある実技講座に積極的に参加しましょう。

師範に合格された皆様、おめでとうございます。今からまた新たな書の道が始まります。指導者を目指しましょう！公募展に出品しましょう！それぞれの書の世界をどんどん広げて行って下さい。師範優秀者表彰もぜひ目指して下さい！皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

師範合格者優秀作品



▶川西 典子



▶富永ゆき子



▶森部真貴子



▶戸田 明美



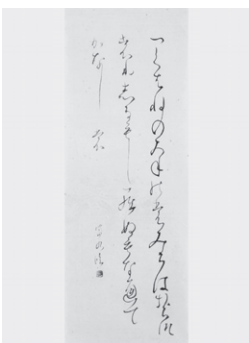
▶中井 順子



▶川那邊清美

賞状
特選
森部真貴子
あなたは本会主催の日本の四季を描く絵画コンクールにおいて頭書の成績をおられましたので、これを賞します
令和五年二月十日
西日本観光協会
実行委員長 山田太朗

▲森部真貴子



▶戸田 明美